

[平成 3 1 年 度 事 業 計 画 書]

当財団は、設立来学術研究と社会福祉事業に対し重点的助成を行なっておりますが、本年度は財団設立50年目（公益法人移行後10年目）に当たることから、50周年記念特別助成として、助成金額の増額及び新たなテーマへの助成を実施致します。

年間「助成総額」については、平成26年度から平成30年度までの5年間に拠出会社より頂いた拠出金計100億円の運用収入、並びに平成27年度より継続的に積み立ててきた50周年記念事業積立金をもとに、前年度予算比107億円増の「562百万円」とする計画と致しました。

本年度事業の具体的内容は次の通りです。

1. 学術研究を行なう者に対する研究費の助成

(1) 自然科学研究費の助成金として352百万円を目途とする。

(前年度予算比+52百万円)

下記基準による公募案件につき、厳選の上、実施する。

自然科学のすべての分野にかかわる独創的かつ先駆的研究を支援するとともに、既成の概念にとらわれず、新しい発想で複数の領域にまたがる研究にも期待して助成を行なう。

また、50周年特別助成として、若手研究者向け助成を新たに実施する。

・選考委員 佐藤勝彦 委員長 ほか委員9名

(2) 人文科学研究費の助成金として100百万円を目途とする。

(前年度予算比+40百万円)

下記基準による公募案件につき、厳選の上、実施する。

人文学分野、及びそれに関連する分野からなる、人文社会系研究

全般を対象とし、基礎的かつ着実な実証研究の内、特に優れたものに対し選考の上、助成を行なう。

また、50周年特別助成として、社会課題解決のための大型連携研究への助成、並びに文化財修復事業への助成を新たに実施する。

・選考委員 谷本雅之 委員長 ほか委員4名、専門委員3名

2. 社会福祉に関する事業・研究に対する助成金として100百万円を目途とする。 (前年度予算比+10百万円)

下記基準による公募案件につき、厳選の上、実施する。

また、事業における「開拓性・実験性」、「新しい視点」、「普遍化の可能性」の要件の見直しを実施する。

イ. 現行制度上、公の援助を受け難い、開拓的ないし実験的な社会福祉の向上に資する民間の事業（原則として法人に限る）

ロ. 開拓的ないし実験的な、社会福祉に関する科学的調査研究
(個人・法人等いずれも可)

ハ. 研究者と社会福祉事業者/活動者等、または異なる専門領域の複数のメンバーがチームを形成し、同一の社会課題に対し、より多角的に、ダイナミックに挑戦する提案型の応募

・選考委員 水田邦雄 委員長 ほか委員5名

3. 諸事業費助成金として10百万円を目途とする。

(前年度予算比+5百万円)

従来通り、学術研究並びに社会福祉の向上に必要な諸活動・諸事業に対し、補完的に機動的で適切な援助を行なう。また、自然科学、人文科学、社会福祉等の分野の複合領域等、これまでの個別助成部門では、十分な対応が困難な新分野の研究対象等についても、関係選考委員等の協力も得て、引き続き試行的開拓に努めることとする。加えて、公益事業の発展に資する調査・研究、情報発信等の諸活動についても支援する。

4. 平成32年度助成事業に対する準備等

平成32年度についても、50周年記念特別助成を継続する予定であり、平成31年度助成の決定並びに贈呈の実施終了次第、引き続き平成32年度助成に関する諸準備を行ない、その募集も開始する。

さらに新たな半世紀を迎える当財団としての事業の見直しの検討を行う。

以上